

仙台市立上野山小学校の実践事例こどものまち2024

実践紹介校：仙台市立上野山小学校

【実践内容】

○取組内容について

仙台自分づくり教育として、6年実行委員が企画、政策、政党を立て、市長選を行うなど、新たな実践を行いながら進めてきた。6年生は市長を中心にまちのルールを決め、各店舗では事業の計画書を作って銀行に資金を借り入れ、売り上げから返済するためにさまざまな工夫をした。1, 2年生「看板・お財布づくり」3年生「上野山のいいところを取り入れた紙幣のデザイン」、4年生「ユニバーサルデザインを意識したパンフレットづくり・PR活動」、5年生「SDG'sを生かしたお店の準備・運営」という役割分担で準備を進めてきた。また、3～5年生が自分で希望した店の従業員として一緒に準備それぞれのお店の準備をした。市役所では当日の案内や警察として困った人への対応、ごみの分別、住民（参加者）アンケートなどを行った。

当日は、学校内を「一つの町」に見立て、全児童が参加し、店を出して仕事をしたり、買い物をしたりして「ほのぼのゆめタウン」を満喫した。

○地域・保護者への周知方法について

学校だより・学年だより・まなびポケット・回覧板・来賓の方々へは案内状を通じて周知を図ってきた。当日は、約200名の保護者をはじめ、各町内会長、各種団体の方々、近隣の小中学校の教職員、教育関係者の方々が来校した。





【本事業の成果と課題】

全学年に役割分担を決め、活動に取り組むことで、学校全体として一体感を味わいながら活動に取り組むことができた。また、6年生では、アナウンサーや選挙管理委員会などの外部講師を活用し、相手を意識した話し方や選挙の仕組み、チームビルディングの仕方など学んだことを取り入れ、活動を計画した。どの学年も、各教科で学んだことをモチーフに、様々なアイデアを出し合い、活動に取り入れながら本事業に取り組んだ。本事業では、子供たちの思いを生かし、伸び伸びと活動を進めることができた。

今年度は「こどものまち」を始めて2年目であるため6年担任も子供たちも自分たちのやりたいイメージが持てていろいろ挑戦できた。他の学年の子供たちも6年生のリーダーシップで総合的な学習の時間の中で活動をするため学級活動で全校の児童祭りをを行うより教職員の負担や時数の圧迫は少なかった。一方で6年生の担任が6年生の指導を一手に引き受けていたので縦割り活動に入ったら各担当教職員も活動内容をもっと把握して支援したいという反省も出た。

今年度、全児童が主体的にかかわる活動として年間の指導計画に取り入れることができたので、回数を重ねる中で全職員が自分づくり教育の総括として「こどものまち」を意識しながら活動の支援をすること、小学校の経験が中学校の活動でも効果的に生かされるよう検討をしていく。